



お元気ですか！ 志村 たかよし です

富山市の「コンパクトシティ」を視察

「住民のため」よりも「ビジネスチャンスづくり」のまちづくり!?



住民の声より景観を重視。城とLRTの「ツーショット」

10月24、25日、富山市の「コンパクトシティ」の実態を富山市在住の地域経済研究家渡邊眞一氏の案内で視察しました。いま、少子高齢化対策として東京のまちづくりにも「コンパクトネットワーク」が強調されています。そのモデルともいえる富山市のまちづくりを検証し、中央区のまちづくりを考えたいと思います。

住民より景観と企業を重視したLRTルート

富山藩の城下町として栄えた地域を中心とした富山市は、05年4月の7市町村による新設合併によって、県庁所在地で全国2位の面積

を持つ自治体となりました。

富山市中心部を環状線で走るLRT「セントラム」は、12年に開業しましたが、そのルートは人が多く住む地域を避け、城址公園のお堀側を立山連峰を正面に眺めて大手町に入り、全日空ホテルなどオフィス街の中を通るものになっています。

住民の方たちは、同地域を走っていた市電環状線（70年代に廃線）のルート復活を要望しましたが、住民の声は届かず、市長は景観と企業の利便性を重視して現在のルートを決めてしまいました。「誰のためのコンパクトシティなのか」が問われる問題です。

民間投資の活発化を誇る市長

富山市では、03年から、街の中心部に人や施設、企業等を集約する「コンパクトシティ」のまちづくり

コンパクトシティとは…

「コンパクトシティ」とは、都市的土地利用の郊外への拡大を抑制すると同時に中心市街地の活性化が図られた、生活に必要な諸機能が近接した効率的で持続可能な都市、もしくはそれを目指した都市政策のことで、類似した概念としては、アメリカにおける「ニューアーバニズム」や、イギリスにおける「アーバンビレッジ」などがあります。ウイキペディアより2000年11月、OECD（経済協力開発機構）は日本に、2000年頃から都市地域への投資拡大、市町村合併の推進、公共の利益のために私権の制限などとともに、「コンパクトで機能的なまちづくり」を勧告しましたが、富山市や青森市など実行した各地で失敗例が相次いでいます。

くりがはじまりました。

「コンパクトなまちづくりの効果が」民間投資の活性化、公共投資が呼び水となり、市街地再開発事業など民間投資が活発化」

これは、富山市長が、12年に発表した「コンパクトシティ戦略に

■ 公共投資が呼び水となり、市街地再開発事業など民間投資が活発化



■ ■ I は住宅街を走った旧環状線のルート。LRTに沿って再開発計画が目白押しです。＝市資料より



図書館とガラス美術館の複合施設

による富山市型都市経営の構築」という報告書に掲載されている大見出し(上)です。まさに、大企業のためのまちづくりそのもので、住民の姿は見えません。

中央区のまちづくりでも市街地再開発事業に、ばく大な税金が投入されていますが、富山市でも、例えば市立図書館とガラス美術館などが入った複合施設(左写真)の整備費は142億円超ですが、そこには約60億円の補助金(税金)が投入されています。

07年には、富山市総曲輪南地区の市街地再開発ビルとして

「意見」を要望など、お気軽に「連絡ください」(090-9000-0000)

て「フェリオ」(大和)がオープンしました。

総曲輪通り商店街は、上図のように市の中心部にありますが、周辺の地域では大きな問題が起きていました。また「コンパクトシティ」の中心部でも深刻な実態を見ることができました。

国が打ち出した方針「コンパクト+ネットワーク」は、東京や中央区のまちづくりにも大きな影響を与えます。

次回は、富山市の「コンパクトシティ」で、どんな問題が起きているのか、ご報告いたします。

(つづく)



フェリオ(大和)の外観

ブログもごらんください

志村たかよしワールド

検索